

『阿賀に生きる』『春、阿賀の岸辺にて』
映画上映会&トークイベント

光と闇から見えないものへ

―地域・環境・アートの環流―

水俣病になっても生きててよかった。
楽しいことをいっぱいして。そういう運動もあっていいんじゃないか。



第一部 10:00-12:00　映画『阿賀に生きる』上映
第二部 13:30-14:40　映画『春、阿賀の岸辺にて』上映
第三部 14:50-16:30　トーク「光と闇から見えないものへ」

登壇者
小森はるか（映像作家、『春、阿賀の岸辺にて』監督）
旗野秀人　（新潟水俣病安田患者の会事務局長）
堀江宗正　（東京大学大学院人文社会系研究科教授）
鉾井喬　　（現代美術家、東京大学アルスノーヴァ特任助教）

開会挨拶：関谷雄一 ／ 司会進行：長岡慶 ／ 閉会挨拶：中村沙絵（TINDOWS）

2026
12/20（日）
10:00-16:30（開場9:15）
参加無料【事前申込制】
東京大学駒場Ⅰキャンパス
18号館ホール

アクセスマップ

主催：グローバル地域研究機構 環インド洋地域研究プロジェクト・東京大学拠点（TINDOWS）

「映える」時代の今だからこそ、
日常の「見えないもの」に目を凝らす。

約40年前、7人の若者が新潟水俣病の患者たちと共に暮らし、１本の映画をつくりました。『阿賀に生きる』は、のちに日本映画史に残る傑作と称され、今も多くの人々を惹きつけてやみません。同作は、公害をめぐる特定の被害者像に沿って「わかりやすさ」をつくりだすということから距離をおき、川と共にある人々の日常を丹念に描きながら、心豊かに生きる人々の想いや、外からは見えにくい障害、痛み、記憶の層を浮かびあがらせます。

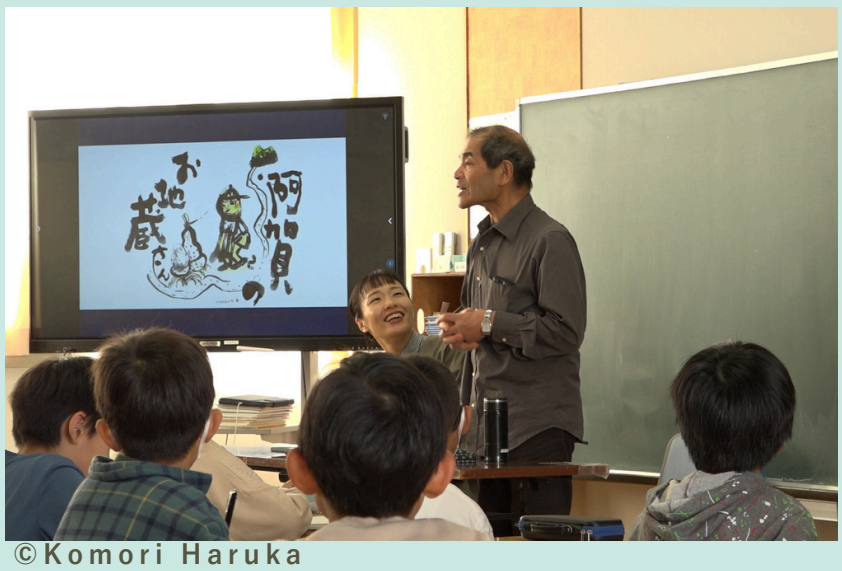
単純化された「映える」情報がますます影響力をもつ現代。本イベントでは、改めて「見えないもの」に焦点をあてます。同作、そしてその後の文化的な支援の歩みを描く『春、阿賀の岸辺にて』を上映し、近代化の光と闇のその先にある、「見えないもの」と共にあることやそれを伝えることの未来について、地域・環境・アートの環流という視点から語り合います。


@Kasamafilm

第一部　『阿賀に生きる』

【1992年/115分/監督 佐藤真】

豊富な水量や豊かな自然を誇ることで知られ、1960年代に端を発する新潟水俣病の舞台にもなった新潟県・阿賀野川の流域に暮らす人々にスポットを当てたドキュメンタリー。佐藤真監督ら7人のスタッフが3年にわたって同地で共同生活を送り、住人たちの生活に密着。川とともに生きてきた人々の日常をありのままに映し出すと同時に、その一方で彼らが水俣病の被害者家族であるという現実にも迫る。山形国際ドキュメンタリー映画祭優秀賞をはじめ国内・海外の映画賞を多数受賞。



©Komori Haruka

第二部　『春、阿賀の岸辺にて』

【2025年/64分/監督 小森はるか】

新潟水俣病の患者運動の支援者、旗野秀人さんは映画『阿賀に生きる』の発起人。現在も「冥土のみやげ」という名の“文化運動”を一人で続け、亡くなった患者たちを偲ぶ追悼集会を開き、様々な記録媒体を使って後世の人々に新潟水俣病を伝えている。旗野さんに惹かれた小森はるか監督は、阿賀野川流域へ移住して撮影を続けてきた。本当の支援とは何か。死を別れとはしない、そばに居続ける人の50年の歩みを映し出す。恵比寿映像祭2025第2回コミッション・プロジェクト特別賞受賞。

第三部　トーク「光と闇から見えないものへ」

登壇者：

小森はるか（こもり　はるか）



映像作家。2011年以降、岩手県陸前高田市や新潟市などを拠点に、人々の語りと風景の記録から作品制作を続ける。一般社団法人NOOKのメンバーとしても活動。主な作品に『息の跡』、『空に聞く』、『二重のまち／交代地のうたを編む』（瀬尾夏美と共同監督）、『春、阿賀の岸辺にて』など。

旗野秀人（はたの ひでと）



新潟水俣病安田患者の会事務局長。1971年より家業の大工を継ぎながら、新潟水俣病未認定患者の支援に取り組む。映像や絵本、CD制作、公害地を結ぶお地蔵さんの建立など水俣病問題を文化運動として展開。新潟県立環境と人間のふれあい館運営委員、「冥土のみやげ企画」主宰。

堀江宗正（ほりえ のりちか）



東京大学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センター教授。専門は宗教学、死生学、環境倫理。著書に『歴史のなかの宗教心理学』『スピリチュアリティのゆくえ』など。田中正造に関するYouTube番組を配信し、NPO「足尾鉱毒事件田中正造記念館」のボランティアガイドを務める。

鉾井喬（ほこい たかし）



現代美術家、東京大学アルスノーヴァ特任助教。東京藝術大学大学院修了後、NHKにカメラマンとして就職し東日本大震災で津波を空撮・中継。退職後に制作活動を再開し、学生時代に熱中した人力飛行機と震災の経験から、風やエネルギーを可視化する作品を制作。多くの芸術祭に参加。

参加費　無料　　定員　180名【事前申込制】

申込方法　QRコードまたは下記URLからお申込みください。
https://forms.gle/2FF7V1ta8FAAa84fA

問い合わせ　グローバル地域研究機構 環インド洋地域研究プロジェクト・東京大学拠点（TINDOWS）
Email : tindowsoffice@tindows.c.u-tokyo.ac.jp

INDOWS 環インド洋地域研究 Indian Ocean World Studies